

1P115

障がい児・者をもつきょうだいの家族に対する思い

矢野 芳美

金城大学

【目的】

きょうだいは、障害児・者と共と同じ家庭で生活し成長している。きょうだい、同胞、家族は互いに影響し、同胞を支えるために家族と共にきょうだいの果たす役割は大きいと考えられる。きょうだいは同胞がいることで感じる不便や制限、生活場面で我慢せざる負えない等の複雑な思いを抱えていると考えられる。家族に対しても様々な思いや感情を抱いていると考えられ、このようなきょうだいの思いに関する分析検討し、きょうだいへの支援を考える一助とすることを目的とした。本研究では、障害児・者をもつ兄妹をきょうだい、障害児・者本人を同胞とした。

【方法】

研究協力者は出生時より同胞と暮らすきょうだい。データ収集方法は半構成的面接を実施。面接の視点は年少期より現在に至るまでの家族に対する思いについてとした。分析方法は質的記述的分析法に基づきカテゴリーを抽出した。

【倫理的配慮】

協力者の条件等を公に募集し、自ら協力意思を表明した中より選出した。研究協力は自由意志、断った場合でも不利益はないこと、プライバシー保護等を説明し同意を得た。協力者の了解を得てICレコーダーに録音した。所属する研究機関の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

きょうだい4名に面接を実施した。20～30歳代、全員女性。年少期より全員同胞と同居していた。分析結果は、子どもの頃は家族から自分のことを一番に見てほしく、【もっと気にかけてほしかった】という素直な感情をもっていた。しかし、家庭の状況から我慢して、いい子でいることが家族のためになると考え、【迷惑をかけてはいけなかった】と思っていた。同胞に抱く感情とは別に、同胞の世話をする家族の大変さを感じ、家族のために【同胞の世話を手伝わないといけない】と考えていた。同胞の世話の中には行いたくない医療行為もあり、家族を助けるために実施している様子であった。成長する環境に同胞や家族の影響は大きい、きょうだい自身はその環境しか知らないため、【家族は比べられない】と考えていた。

【考察】

成長していく中できょうだいは家族に対して、多様な感情をもっていた。しかし、きょうだいの感情が優先されることは少なく、きょうだいも自分の感情の表出には消極的であったと考える。きょうだいは家族に対しての感情をコントロールしていた。今回の面接したきょうだいは、家族に対して関係を崩さないように振舞っていたと考えられる。

1P116

遠隔健康医療相談における「育児相談」の内訳

竹山 啓吾¹、橋本 直也²、安藤 友久³、田中 俊之²、白井 沙良子²¹山梨大学医学部医学科²株式会社Kids Public³国立成育医療研究センター政策科学研究部

【目的】

近年、少子化・核家族化に伴い育児不安が社会問題となっている。多くの行政機関で育児相談の窓口が設置されているが、その支援も十分ではないとする報告もある。そんな中、子育て世代が使い慣れたスマートフォンで自宅から相談可能な遠隔健康医療相談への注目が高まっている。しかし、実際に遠隔健康医療相談に寄せられる具体的な育児相談の内容の内訳はわかっていない。そこで本研究は、遠隔健康医療相談における育児相談の内訳を明らかにすることを目的とした。

【方法】

株式会社Kids Publicが運営する遠隔健康医療相談「小児科オンライン」の「夜間相談」（平日18時から22時に予約制で小児科医にLINEと電話で相談ができるサービス）と「いつでも相談」（24時間予約なしでいつでも小児科医にメール1往復分の相談ができるサービス）に2020年5月4日から同月24日までに寄せられた相談を対象とした。そのうち小児科医が主要な相談内容をICD10分類に則して「その他育児相談」と判断した相談を抽出した。その中で小児科専門医3名で明らかに他に分類される内容だと判断した相談を除外した。残った相談を「その他育児相談」として、記述研究の手法で分析した。

【結果】

期間中の全相談件数は3,422件で、うち夜間相談が1,352件、いつでも相談が2,070件だった。そして「その他育児相談」の全件数は414件（12%）で、夜間相談では125件（9%）、いつでも相談では289件（14%）だった。「その他育児相談」全件の相談項目の内訳は、多いものから順に、睡眠に関する相談が68件（16%）、クセに関する相談が55件（13%）、コロナ禍特有の相談が39件（9%）だった。夜間相談といつでも相談のそれぞれにおける内訳を分析すると、いつでも相談で多い相談項目は全件の場合と同様だったが、夜間相談では軽微なアクシデント、排泄、啼泣といった相談の割合も高かった。

【考察】

育児の中でも「睡眠」は最も悩みの多い分野であることが示された。実際、子どもの睡眠リズムと養育者のストレスは相関するとの報告がある。そして、遠隔健康医療相談ではそのようなストレスや不安を相談しやすい可能性が考えられ、今後はその特性を活かした育児支援で小児科診療や保健サービスを補完しうる可能性がある。